平成２６年度第２回千葉市市民参加協働推進会議　議事録

１　日　時

平成２７年３月２４日（火）　１５：００～１７：００

２　開催場所

千葉市中央コミュニティセンター８階　千鳥・海鴎

３　出席者

（委　員）福川会長、井上副会長、東委員、粉川委員、小松委員、中村委員、山本俊子委員、金田委員、小柳委員

（事務局）原市民自治推進部長、潮見市民自治推進課長、竹田主査、金山主任主事、島村主任主事、鈴木主事

４　議題等

（１）議題

・会長及び副会長の選出について

・平成２７年度千葉市市民参加・協働実施計画について

（２）報告事項

・地域運営委員会について

・（仮称）私のまちづくり条例の検討について

・協働事業提案制度の実施報告について

・ちばレポサポーター活動の開始について

・第１回千葉市ＮＰＯ活動大賞について

５　議事の概要

（１）会長及び副会長の選出について

委員の互選により、福川委員が会長、井上委員が副会長に選出された。

（２）平成２７年度千葉市市民参加・協働実施計画について

事務局から、「平成２７年度千葉市市民参加・協働実施計画（案）」の概要について説明。審議の後、承認を得た。

（３）地域運営委員会について

事務局から、「地域運営委員会」の概要について説明した。

（４）（仮称）私のまちづくり条例の検討について

「（仮称）私のまちづくり条例」の検討状況について説明した。

（５）協働事業提案制度の実施報告について

「協働事業提案制度」の実施状況について説明した。

（６）ちばレポサポーター活動の開始について

「ちばレポサポーター活動」について説明した。

（７）第１回千葉市ＮＰＯ活動大賞について

「第１回千葉市ＮＰＯ活動大賞」の概要について説明した。

６　会議経過

○福川会長

本日の議題である「平成２７年度千葉市市民参加・協働実施計画（案)」について説明願う。

○潮見課長

以下の資料により説明。

・資料１－１「平成２７年度千葉市市民参加・協働実施計画（案）の概要」

・資料１－２「平成２７年度千葉市市民参加・協働実施計画（案）」

○中村委員

（仮称）私のまちづくり条例に関する市民ワークショップについて、興味関心のある人だけでなく、広く参加してもらうため無作為に抽出された市民に参加してもらうということだが、いままでこの方法で実施したことはあるか。

○原部長

平成２２年度に新基本計画の策定に際して、無作為に抽出された市民によるワークショップを行った。

新基本計画は、市のすべての政策に関わってくる計画なので、参加者がいくつかの部会に分かれて複数回話し合いを行い、最後に提言いただいた。

参加者の中には、こういう話し合いに参加するきっかけが欲しかったという意見もあった。

○潮見課長

市民参加協働の分野だと一握りの興味のある市民が集まってしまう。参加してもいいけど、一押しが欲しいという市民もいるため、全国的にこの方法は広がっている。

○福川会長

案内が届いても参加の可否は選択できるのか。

○潮見課長

選択できる。

○井上委員

実施計画を見ると市民参加協働に関わる事業が年々増えていることが読み取れるが、なぜ増えているのか、また今後も増え続けていく予測なのか。

○潮見課長

職員の参加協働に関する意識が高まってきていることにより、事業の検討に当たり、参加協働の手法を取り入れる傾向にあるため、今後も増えていくことが予想される。

○粉川委員
　このように整理されている資料はなかなか他市ではないのですごいと感じた。
　一方で、参加協働の在り方は柔軟であるべきという考え方があるが、年度途中で計画が変更になった場合に、この計画にどのように反映されるのか教えてほしい。

○潮見課長
　この計画は単年度計画。
　計画の執行状況を把握するため、「実施状況」を取りまとめている。
　計画よりも実績のほうが増える傾向にあり、昨年度は計画では２８１項目、状況では３１７項目と大幅に増えた。

○粉川委員
　実績の数字もこの計画の中で示してもらえると分かりやすいと感じる。

○福川会長
　実績の審議のタイミングは。

○潮見課長
　例えば、平成２７年度の計画の場合は、平成２８年の夏に審議いただくことになる。

○小松委員
　太字の項目に注目したい。
　全くの新規の事業だけでなく、既に実施している事業に参加協働の手法を取り入れて実施したというものがあり興味深い。計画の中で件数が分かるといい。

○潮見課長
　そのようにしたい。

○東委員
　評価は行うのか。

○潮見課長
　この計画に掲載されているすべての事業について当課で評価を行うことは厳しい。
　基本的には各所管課が事業の評価を行っており、当課では実施状況をＨＰに公開する際に、実施状況の各事業の項目をクリックすると各所管課が事業紹介をするＨＰを見ることができるようにしている。

○福川会長
　評価についての意見はあると思うが、年々改善されてきていると感じる。
　それでは、実施計画については承認でよろしいか。
　（一同承認）
　続いて報告事項１「地域運営委員会」について説明願う。

○潮見課長
　以下の資料により説明。
・資料２－１「地域運営委員会について」
・資料２－２「地域運営委員会への市の支援策について」

○井上委員
　いい計画だと思う。
　資料２－１は、初めて見る人にとっては分かりづらいように感じる。
　資料２－２の補助金は何年位続くものなのか。また、補助金がなくなったときに代わりになるものはあるのか。

○潮見課長
　資料２－１は、既に制度概要を説明しており、さらに興味を持った方向けの説明資料。
　資料２－２の補助金は、今後継続的に続いていくもので、むしろ他の補助金も統合していく。
　また、継続的に運営していくため、地域運営委員会自体が収入を得ることも重要で、ＮＰＯ法人や社団法人など法人化していくことも考えている。

○中村委員
　平成２７年度は美浜区でモデル実施するということだが、実施に当たり全区へ周知は行ったのか。

○潮見課長
　美浜区でのモデル実施となるのは地域担当職員制度。
　地域運営委員会については、一昨年から各区の地区コミュニティづくり懇談会に向けて周知をしている。１０年かけて、理解してもらった地域に導入していく予定。

○粉川委員
　藤沢市に「地域経営会議」といった同じような事例があったが、首長が変わるなどの理由で方針が変わり、地域に影響を及ぼし紛糾したことがあった。このような事業を行う場合には、継続性が重要で覚悟が必要。しっかりとサポートしてほしい。

○東委員
　１００万円で事業が継続できるか、会の中でお金の使い方が決められるかが心配。
　特に美浜区の高洲地区では分譲・賃貸・戸建など様々なエリアがある。補助金の統合によって、各地区への補助が薄くなってしまったりしないのか。

○潮見課長
　高洲地区は、現状では地域運営委員会を設立するには難しい地域かもしれない。

お金の配分については、最初は統合する前の配分にして、後々各団体の課題を共有していく中でお金の配分を決めてもらえばいいと考えている。また、補助金の額については統合する補助金の合計額に上乗せ額を加えた額を支給するため、上乗せ分で何か事業をしてもらいたい。

現状、市内で２地域において設立済み、４地域において準備会ができている。

○井上委員

地域運営委員会が競い合うコンテストのようなものがあるといい。

○福川会長

報告事項１については以上。

続いて、報告事項２「(仮称) 私のまちづくり条例の検討について」説明願う。

○潮見課長

以下の資料により説明。

・資料３「(仮称) 私のまちづくり条例の検討について」

○中村委員

条例案が完成する前に、アンケート、ワークショップ等の条例策定のプロセスの中で関わった人達による中間発表会を開催し、意見交換できるといい。

○潮見課長

たたき台を作成する前に取り組みたい。

○粉川委員

非常に重要な条例だと思う。

千葉市におけるオープンガバメントの事例として「ちばレポ」がある。既に藤沢市や大和市で地域の課題をレポートするシステムが存在したため、最初はどこが先進事例なのかと思ったが、当時できなかったレポートされた課題の解決を市民が行うという点について非常に先進性を感じる。外部が取り上げることで市民が興味を持つということもあるため、千葉市だけにとどめるのではなく、プロセスを外部発信するべき。

○中村委員

粉川委員のおっしゃる通り、外部からの評価で元気になるということもあると思う。

条例については、計画策定段階で参加した人にも育ってほしい。市民と行政が関わることでわくわくする市民が増えるといい。

策定プロセスで行う市民ワークショップについては、純粋に無作為抽出なのか。

○原部長

新基本計画策定時に行ったワークショップにおいて、純粋に無作為抽出したが、年齢や男女比は問題なかった。また、検討段階で関わった方々への中間発表も行った。

○小柳委員
　ワークショップは４回実施程度予定ということだが、毎回同じメンバーなのか。

○潮見課長
　同じメンバーで議論し、方向性を決めていただきたいと考えている。
　３０人位にご協力いただくため、１，０００人位にハガキを出す予定。

○金田委員
　プロジェクトチームによる検討はなぜ若手職員なのか。

○潮見課長
　柔軟な意見を聞きたいという趣旨。

○福川会長
　庁内における検討の中でイメージはできているのか。

○潮見課長
　目指すもの、イメージ、構成などはできている。

○中村委員
　庁内における検討と同様、市民の意見を聞く際にもナビゲーターは置くのか。
　参加者の中で意識の違いがあると思うので、参加者に不満が残らないようにファシリテーターの存在が重要だと思う。

○潮見課長
　職員がファシリテーターとなり、議論は市民にしていただきたいと考えている。

○粉川委員
　志木市で無作為抽出の手法を取り入れていたが、参加者が成長するのに半年はかかるということだったので、３０人で４回、実施期間が３か月強だと少し心配。

○井上委員
　ごみ減量のワークショップに参加した経験がある。４０～５０人の集まりで、テーマなし、ノープランで話し合ったが、最終的には大小１０回程度のワークショップを経て意見をまとめることができた。

○小松委員
　例えば、市民向けの潜在意識調査などを無作為抽出で行う際に、ワークショップなどの会議案内を同封する。２，０００名に送付すると、１，２００名位から調査の回答があり、その中で会議に参加可能なのは４０～５０人程度。
　経験上、３、４回では意見をまとめることは難しい。

また、ファシリテーターの存在が重要。

○潮見課長
回数が多すぎると逆に敬遠してしまう場合もあると思うので、４回で周知しておいて、必要に応じて何回でも実施できればと考えている。

○中村委員
回数は、参加者の合意によるという表現でもいいのではないか。

○福川会長
報告事項２については以上。
続いて、報告事項３「協働事業提案制度の実施報告について」、４「ちばレポサポーター活動の開始について」、５「第１回千葉市ＮＰＯ活動大賞について」一括して説明願う。

○潮見課長
以下の資料により説明。
・資料４「協働事業提案制度の実施報告について」
・資料５「ちばレポサポーター活動の開始について」
・資料６「第１回千葉市ＮＰＯ活動大賞について」

○山本委員
ＮＰＯ活動大賞について、エントリー団体の方からどのように賞が選ばれたのか釈然としないという話を聞いた。

○潮見課長
ＮＰＯの活動をＰＲしたいというのが一番の目的で､順位をつけることが目的ではない。

○福川会長
本日予定されている議題・報告事項は以上。

○潮見課長
次回の会議日程について説明（平成２７年８月末頃を予定）
（閉会）